

栃木県真岡市における将来リスクを見据えたコミュニティバス路線検討のための
交通弱者予備軍に関する調査研究
コミュニティデザイン学科 阪田和哉，研究協力者：真岡市総務部企画課

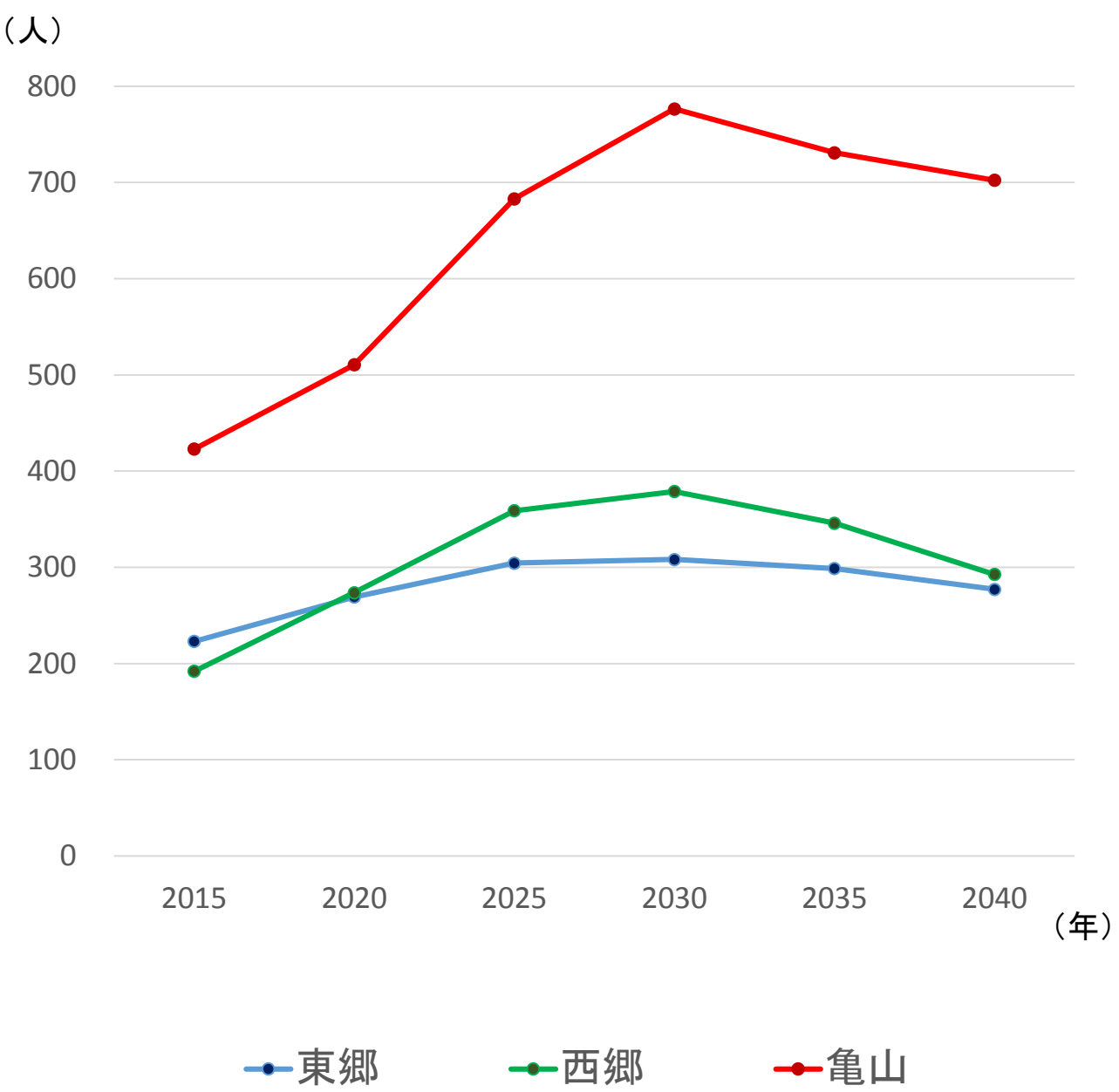
研究背景

- 真岡市では、車で移動が難しい市民の交通手段として、いちごタクシー（予約型の乗り合いタクシー）とコットベリー号（循環バス）を運行。
- いちごタクシーは市内全域と市内中心部の間の移動に使われる。通院利用が多い。
- コットベリー号は市内中心部を循環している（路線図参照）。通院、買い物利用が多い。
- 高齢で自身が車を運転できず、家族も送迎できない場合に交通弱者となることが多い。そのため、上記の交通手段の利用者は、70歳代～80歳代が多くを占めている。
- 将来の70歳以上人口を推計すると、現在よりも数十%増加する見通しである。
- 交通弱者も同様に増加していくのだろうか。
- どのような備えが必要だろうか。

結論・まとめ

- 現在と同じ場所への居住意向が強いことから、今住んでいる人がその地で歳を重ねるという想定で将来を考えることが適切である。
- 50歳代、60歳代の住民で、将来（20年後）、車に同乗させてもらえる人を、家族・近隣に想定できないという人が、20～30%程度いる。
- 配偶者の車に同乗することを想定できる人が約4割いる。将来、高齢者の免許返納促進や、免許更新制度の変更などがあれば、同乗での移動が困難となる人はかなり増える恐れがある。
- 交通弱者にも使いやすい地域公共交通の十分な輸送力確保は喫緊の課題である。公共交通サービスの充実免許返納の促進にもつながる可能性がある。

地区別将来人口推計（70歳代＋80歳代の人口）



調査分析方法

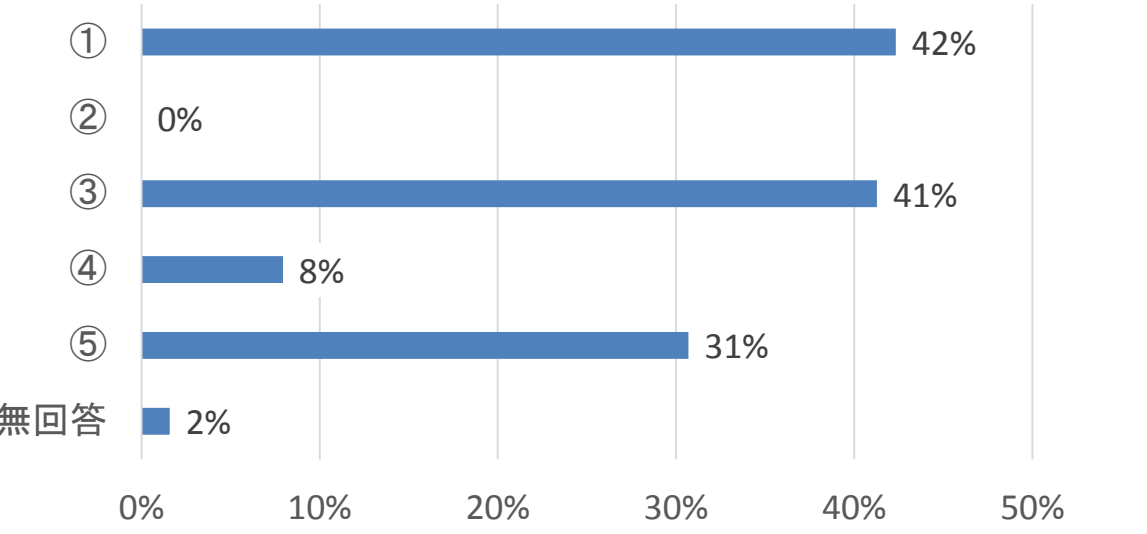
- コットベリー号沿線周辺地区から3地区を選定し、アンケート調査を実施
- 将来の70歳代、80歳代人口が多くなると推測される地区を選定（東郷、西郷、亀山の3地区、右上図参照）
- 50歳代、60歳代の人々を対象に、20年後の見通しを質問

※ 西郷地区（北真岡駅の北側）には、市内最大規模の病院である芳賀赤十字病院が移転する予定である

調査名	将来の暮らしと交通に関する市民アンケート
対象	東郷、西郷、亀山の3地区に住む50歳代、60歳代の方
調査時期	2016年9月
調査方法	郵送による配布回収
配布票数	365票
回収票数	189票（回収率51.8%）
主な質問	個人属性 将来の居住意向 現在・将来の運転可能な同居家族の有無 将来の同乗依頼可能な近隣の親族・住民の有無 運転免許自主返納について

下記の項目に当てはまる人と、今から20年後、同居している可能性が高いですか。運転免許の自主返納や転居の可能性を考えて、当てはまる人をすべてお答えください。

1. 自動車を運転できる配偶者
2. 自動車を運転できる兄弟
3. 自動車を運転できる子（義理の息子、娘、甥、姪を含む）
4. 自動車を運転できる孫
5. 当てはまる同居家族はいないと思う



分析結果と考察

- 将来（20年先）、同居している配偶者、子供の運転に頼る可能性を想定できる人がそれぞれ約4割。近隣に子供が住んでいることを想定できる人も多い。
- 同居家族の運転に頼ることが難しいと想定される人が3割以上いる。この回答をした方々の多くは、近所に運転を頼めそうな人を想定できないと回答している。
- 同居（左のグラフ）、近隣（右のグラフ）、いずれにも当てはまる人がいないと答えたのは、亀山22%、東郷22%、西郷26%。（上図以外の設問）
- 現在の居住地で20年後も暮らしていると想定している人が大半であった。
- 免許返納の条件は、「自身の体力の衰えを自覚したとき」と答える人が非常に多い。車が不要な移動サービスを条件とする回答も多い。返納する年齢の目安としては70歳代後半の回答が多かった。これは高齢者への調査よりも5歳程度若い。

今から20年後、下記の項目に当てはまる人が、ご近所で暮らしている可能性が高いですか。当てはまる人をすべてお答えください。

1. 自動車を運転できる親戚
2. 自動車を運転できる兄弟
3. 自動車を運転できる子（義理の息子、娘、甥、姪を含む）
4. 自動車を運転できる孫
5. 自動車を運転できる友人、知人（ただし、何でも頼める間柄の人）
6. 当てはまる人はいないと思う

